

《そう合問題8》

いろいろなしゅるいの文章問題をといてみよう。問題をとくときは、本文をよく読み、内ようをしつかり理かいることが大切です。

【例題】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

みなさんは、太陽の動く仕組みを知っていますか。

太陽は朝、東の空からのぼり、昼の間に空の高い所を通って、夕方、西の空にしずみます。

昔の人は、その仕組みについて、いろいろと考えました。その中の一つに、東の空の下で、新しい太陽が次々に生まれていて、毎日一つずつのぼってしずむという考え方がありました。

また、そのころの地球は、平らで、地面も空も動かないと考えられていました。

やがて、地球についていろいろ調べていくと、どうやら地球は丸いということが分かりました。そして、その地球のまわりを、太陽が回っているという考えが出てきたのです。

しかし、科学が進むと、そうではないことが分かりました。太陽が一日一回のぼってしずむのは、地球が一日一回、回っているからだということに、人々は気づいたのです。

(1) この文章の「問い」になる一文をさがして、本文中からはじめの五字をぬき出そう。

(2) 太陽は、どちらの空にしずみますか。

(3) ー線部「その仕組み」とありますが、何の仕組みですか。次のア～エの中からえらぼう。

- ア 新しい太陽が生まれる仕組み。
- イ 地球が平らな仕組み。
- ウ 太陽の動く仕組み。
- エ 地球が丸い仕組み。

(4) 太陽が一日一回のぼってしずむのは、何が、一日一回回っているからですか。

【答え】

- (1) みなさんは
- (2) 西(の空)
- (3) ウ
- (4) 地球

【かいせつ】

(1) 「問い」になる文は、文の終わりが、「～ますか。」や「～ですか。」や「～と思いますか。」など、読む人にたずねる形になっています。

(2) 本文に、「太陽は朝、東の空からのぼり、昼の間に空の高い所を通って、夕方、西の空にしずみます。」と、書いてあります。

(3) 「仕組み」という言葉に着目^{ちやく}すると、三行前に、「太陽の動く仕組み」という言葉が見つかります。

(4) 本文に、「太陽が一日一回のぼってしずむのは、地球が一日一回、回っているからだということに、人々は気づいたのです。」と、書いてあります。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

太陽は、一日に一回、東からのぼって、西にしずみます。のぼってくる太陽を見てみると、上の方が見え始めてから、全体が見えるまでに、①少し時間がかかります。地面の下からゆっくりすがたをあらわし、全てが地面から見えるまでに、二分三十秒くらいかかります。太陽は大きいんだなあと感じます。

太陽がのぼってくるときを、「②日の出」といいます。太陽が、どうなったときが「日の出」なのかということですが、それは、太陽のいちばん上が、地平線から見えたしゅん間です。

一年の中で、「日の出」がいちばん注目されるのは、なんといっても、はつ日の出です。日本人は、はつ日の出を見て、一年の幸せをいのって、手を合わせます。

これには、昔からの習かんが、のこっていると考えられます。

昔の日本人は、作物をゆたかに実らせてくれる神が、はつ日の出とともにやってくる、としんじていました。

昔の人々にとって、米作りは、何より大切なことでした。ですから、③作物をゆたかに実らせてくれる神に対して、手を合わせていのったのです。

ところで、みなさんは、太陽の通り道が、毎日少しずつかわっていることを、知っていますか。

太陽の通り道は、毎日少しずつかわっていった、一年たつと、元のいちにもどります。春、夏、秋、冬ときせつがかわるのは、このためなのです。

(1) ①線部「少し時間がかかります」とありますが、太陽全体が見えるまでには、どのくらいの時間がかかりますか。

くらいかかる。

(2) ②線部「日の出」とは、太陽がどのようなことになったときのことですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

太陽の	

から見えたしゅん間。

(3) 一年の中で、いちばん注目される「日の出」は、何ですか。

--

(4) ③線部「作物をゆたかに実らせてくれる神に対して、手を合わせていのつた」とありますが、それは、なぜですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

昔の日本人にとって、	
	は、

だったから。

(5) 春、夏、秋、冬ときせつがかわるのは、なぜですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

	が、

かわっているから。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

地球がどんな形をしているか、知っていますか。「知っている。」「丸い形をしているよ。」という声が聞こえてきそうです。そうですね。地球は、丸い形をしています。そして、その地球は、うちゅうにうかんでいます。

ところで、みなさんは、地球の大きさについて、考えたことがありますか。形は知っていても、大きさを知っている人は、少ないのではないでしょうか。

実は、地球をぐるっとひとまわりすると、その長さは、およそ四万キロメートルもあります。

このような話をするときにこまるのは、「四万キロメートル」と聞いたとき、なんとなくすごそうな気はするものの、本当のところは、あまりよく分からないことです。

たとえば、「北海道のヒグマは、体長が二メートルぐらいだ。」と言われれば、自分の身長とくらべられるので、ヒグマの大きさがよく分かります。くらべるものがあると少しは分かると思いますので、いくつか例を見てみましょう。

マラソンで走るきよりは、およそ四十キロメートルです。「四万キロメートル」は、これの千倍です。

また、東京から大阪までのきよりは、およそ四百キロメートルなので、「四万キロメートル」は、これの百倍になります。

(1) 線部「地球がどんな形をしているか、知っていますか」は、問いの文です。これに対する答えの文を、本文中からぬき出そう。

(2) 地球をひとまわりしたときの、長さを答えよう。

およそ

(3) 次の空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

A マラソン

・走るきより↓
 ⑦
 およそ

・地球のひとまわりの長さは⑦の
 ①
 倍

B 東京と大阪の間

・きより↓
 ⑦
 およそ

・地球のひとまわりの長さは⑦の
 ①
 倍

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

太陽は、一日に一回、東からのぼって、西にしずみます。のぼってくる太陽を見ていると、上の方が見え始めてから、全体が見えるまでに、少し時間がかかります。地面の下からゆっくりすがたをあらわし、全てが地面から見えるまでに、二分三十秒くらいかかります。太陽は大きいんだなあと感じます。

太陽がのぼってくるときを、「日の出」といいます。太陽が、どうなったときが「日の出」なのかということですが、それは、太陽のいちばん上が、地平線から見えたしゅん間です。

一年の中で、「日の出」がいちばん注目されるのは、なんといっても、はつ日の出です。①日本人は、はつ日の出を見て、一年の幸せをいのって、手を合わせます。

これには、昔からの習かんが、のこっていると考えられます。

昔の日本人は、作物をゆたかに実らせてくれる神が、はつ日の出とともにやってくる、としんじていました。

昔の人々にとって、米作りは、何より大切なことでした。ですから、作物をゆたかに実らせてくれる神に対して、手を合わせていのったのです。

ところで、みなさんは、②太陽の通り道が、毎日少しずつかわっていることを、知っていますか。

太陽の通り道は、毎日少しずつかわっていった、一年たつと、元のいちにもどります。春、夏、秋、冬ときせつがかるのは、このためなのです。

(1) のぼってくる太陽の全体が、地面から見えるまでに、どのくらいの時間がかかりますか。

くらいかかる。

(2) 筆者は、地面の上にすがたをあらわした太陽を見て、どう思いましたか。次のア～エからえらぼう。

ア 太陽は、大きいと思った。

イ 太陽は、ゆっくりのぼると思った。

ウ 太陽は、のぼるのがおそいと思った。

エ 太陽は、東からのぼるのだと思った。

(3) 一年の中で、いちばん注目される「日の出」は、何ですか。

--

(4) ①線部「日本人は、はつ日の出を見て、一年の幸せをいのって、手を合わせます」とありますが、日本人が、このようにする理由は何ですか。空らんにあてはまる言葉^ばを、本文中からぬき出そう。

	昔からの
から。	が、

(5) ②線部「太陽の通り道が、毎日少しずつかわっている」とありますが、これによって、どんなことが起こりますか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

が
と

いうこと。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

地球がどんな形をしているか、知っていますか。「知っている。」「丸い形をしているよ。」という声が聞こえてきそうです。そうですね。地球は、丸い形をしています。そして、その地球は、うちゅうにうかんでいます。

ところで、みなさんは、地球の大きさについて、考えたことがありますか。形は知っていても、大きさを知っている人は、少ないのではないでしようか。

実は、地球をぐるっとひとまわりすると、その長さは、およそ四万キロメートルもあります。

このような話をするときにこまるのは、「四万キロメートル」と聞いたとき、なんとなくすごそうな気はするものの、本当のところは、あまりよく分からないことです。

たとえば、「北海道のヒグマは、体長が二メートルぐらいだ。」と言われれば、自分の身長とくらべられるので、ヒグマの大きさがよく分かります。くらべるものがあると少しは分かると思いますので、いくつか例を見してみましょう。

マラソンで走るきよりは、およそ四十キロメートルです。「四万キロメートル」は、これの千倍です。

また、東京から大阪までのきよりは、およそ四百キロメートルなので、「四万キロメートル」は、これの百倍になります。

(1) 地球は、どんな形をしていますか。

(2) 北海道のヒグマの身長は、何とくらべると分かりやすいと、筆者はせつ明していますか。

(3) 次の空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

A

ア

・ 走るきより↓およそ四十キロメートル

・ 地球のひとまわりの長さは、これの①倍

B

ア

と大阪の間

・ きより↓およそ四百キロメートル

・ 地球のひとまわりの長さは、これの①倍



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

①地球は水の星だといわれています。地球の表面には、海と陸があり、全体の広さを十とすると、海が七、陸が三です。この海や陸は、かぎりなく広がっていて、終わりがないもののように感じます。

ところが、人口がどんどんふえ、科学ぎじゆつが発たつてくると、わたしたちは、海や陸といった地球の自然を、自分たちが思うように、利用するようになりました。

このことによって、広いと思っていた地球で、^②わたしたちが住める場所は、少なくなってきたのです。

たとえば、海は、人間が使ったプラスチックのゴミであふれています。そして、そのプラスチックのゴミが、いつまでも海にのこってしまうため、世界的にも問題になっています。

また、陸は、家をたてたいとか、便利な生活をしたいという理由で、森林を切りたおしてしまいました。これによって、動物たちがすむ場所をうしなったり、気候がかわったりするのです。

わたしたちが、地球のことを考えずに、自然を利用しつづけていけば、やがて地球から、わたしたちの住める場所がなくなります。

海や陸、つまり地球は、わたしたちが住んでいる、自分の家のようなものです。家がプラスチックのゴミであふれ

てしまえば、家に住むことができなくなります。わたしたちは、自分の家と同じように、地球のことも考えて、生きていかなければならないのです。

(1) — ①線部「地球」を、べつの言い方で、何と言いますか。本文中から三字でぬき出そう。

(2) — ②線部「わたしたちが住める場所は、少なくなってきた」とありますが、それはなぜですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

	わたしたちが、地球の自然を、
	思うように、
ようになったから。	



(3) 海で問題になっているものは、何ですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

の	が使った

(4) 森林を切りたおすことによって、どんなことが起おこりますか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

ウ	イ	ア

がかわる。

をうしなう。

が

(5) 筆者ひつは、地球のことを、何にたとえていますか。本文中から四字でぬき出そう。



(3) — ②線部「森林を切りたおしてしまいました」とありますが、こうしたのはなぜですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

・
ア
をたてたいから。

・
イ
をしたいから。

(4) — ③線部「わたしたちが、地球のことを考えずに、自然を利用しつづけていけば」とありますが、このまま自然を利用していけば、どうなってしまうと、筆者は言っていますか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

わたしたちの	

がなくなる。

(5) 筆者は、地球のことを、何にたとえていますか。本文中から四字でぬき出そう。
